《参考資料》

ボーリング柱状図

（橋脚チェックボーリング）

調査名　秋田駅東中央線G451-Y4高速交通関連道路整備工事軟弱地盤動態観測業務委託

ボーリングNO.

事業・工事名

シートNO.

ボーリング名	B-1	調査位置	秋田市下北手谷崎			北緯	・　・　・
発注機関	秋田県秋田土木事務所			調査期間	平成5年12月7日 ～ 平成5年12月9日	東経	・　・　・
調査業者名	応用地質（株） 電話（0188-63-3305）	主任技師	今野敬志	現場代理人	若松勇喜	コア鑑定者	若松勇喜	ボーリング責任者	斉藤勇雄
孔口標高	+11.37 m	角度	上 90°　下 0°	方向	北 0°　西 270°　東 90°　南 180°	地盤勾配	水平 0°　鉛直 90°	使用機種	
総掘進長	9.25 m	試錐機	東邦D-1	ハンマー落下用具	コーンプーリー	エンジン	クボタEA1ON	ポンプ	東邦BG-3

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	7.17	4.20	4.20		埋土 (FI)	暗灰褐 ～ 暗灰			最径10mm～70mm程度の角礫を多く混入する含水量の多い盛土。 0.0～0.4m間 亜円礫多い砂質土。 0.4～0.6m間 砂質土。 3.3m～4.2m間砕石になる。
	6.87	0.50	4.70		砂 (S)	灰褐			サンドマットの砂である。 含水量が多く、不均質である。
	4.87	1.80	6.50		高有機質土（腐植土） (Pt)	暗茶	中位		圧密堆積されている腐植土で、硬く、含水量少ない。上部未分解腐植物を、多く混入する。 4.7～6.0m間 粘性土多くなる。
	3.87	1.00	8.30		有機質土混り粘性土 (C-O)	暗灰	軟かい		硬いシルト質粘土である。 含水量は多く、未分解の繊維質腐植土を全体に含む。 所々、細礫を混入する。
	2.12	0.95	9.25		軟岩・風化岩 (WR)	暗緑灰			固結しているが軟質で脆くなっており、壊れやすいシルト岩。 乾燥するとスレーキングを起こしやすい。

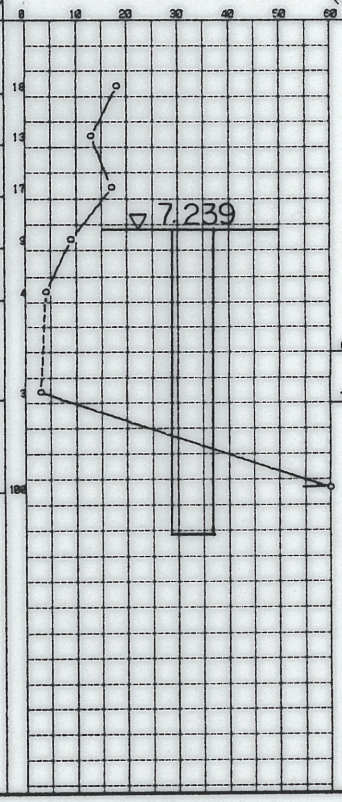
粒度試験による土質区分

孔内水位（m）／測定月日：12/7 3.80

標準貫入試験

深度 (m)	18cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (Cm)
1.15	10	3	5	18/30
1.45				
2.15	5	4	4	13/30
2.45				
3.15	7	5	5	17/30
3.45				
4.15	2	3	4	9/30
4.45				
5.15	1	1	2	4/30
5.45				
7.15	1	1	1	3/30
7.45				
9.10	29	21	5	50/15
9.25				

N値



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
6.50	Ⓟ
7.50	Ⓟ

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
6.00	T-1	Ⓣ
6.75		
8.00	T-2	Ⓣ
8.39		

室内試験

含水量 比重 液性限界 塑性限界 粒度 圧密

掘進月日

<凡例>

柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	図模様
土質材料	礫 (G)	
	礫質土 (GF)	
	砂 (S)	
	砂質土 (SF)	
	シルト (M)	
	粘性土 (C)	
	有機質土 (O)	
	火山灰質粘性土 (V)	
	高有機質土（腐植土） (Pt)	

第2分類

区分	分類名	図模様
補助記号	砂質 (S)	
	シルト質 (M)	
	粘土質 (C)	
	有機質 (O)	
	火山灰質 (V)	
	玉石混り (-B)	
	砂利・礫混り (-G)	
	砂混じり (-S)	
	シルト混り (-M)	
	粘土混り (-C)	
	有機質土混じり (-O)	
	火山灰混り (-V)	
	貝殻混り (-Sh)	

第3分類

区分	分類名	図模様
岩石材料	硬岩 (HR)	
	中硬岩 (MR)	
	軟岩、風化岩 (WR)	
	玉石 (B)	
特殊土材料	浮石（軽石） (Pm)	
	シラス (Si)	
	スコリア (Sc)	
	火山灰 (VA)	
	ローム (Lm)	
	黒ボク (Kb)	
	マサ (WG)	
表土 (S)		
埋土 (FI)		
廃棄物 (W)		

試料採取方法

①シンウォールサンプラーによる
Ⓓデニソンサンプラーによる
㊀貫入試験器による
Ⓕフォイルサンプラーによる
Ⓡ（　　）による

備考